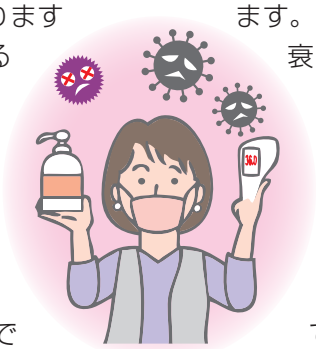
10 2022
三重病院
ニュースレター
news letter vol.273

01 今冬のコロナとインフルエンザの同時流行に備えて
02 「新興感染症を想定した訓練」の取り組み
03 第47回 東海地区小児糖尿病サマーキャンプ開催報告
やまばとギャラリー情報コーナー
04 5病棟の生活のひとコマ㉓
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
『みえツゥちゃん』が誕生しました。
05 3年ぶりに健康フェスタが開催されました!!
通所支援事業のひとコマ
06 病院からのお願い
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

# 今冬のコロナとインフルエンザの同時流行に備えて

パンデミック開始以来最大の流行となった第7波もだいぶん落ち着いてきました。今回のCOVID-19の流行状況は急激にかわりうるので、この原稿が出る際にはどうなっているかわかりませんが、患者数はどんどん減少してほとんど患者はいなくなっているということはないと思います。このコロナウイルス、つまりSARS-CoV-2はこの世界から消えてなくなることはありません。現状では患者数は減少しているようにみえますが、実際には感染者の半数くらいは本人に自覚されていないということが報告されており、現時点においても無症候例、また本人が気にしない程度の軽症例はかなり地域に存在していると考えられます。ただ少なくとも症状のある患者数は減少しておりますので、地域における感染伝播が減少しているのは事実でしょう。しかしながら、そのうち下げ止まり、寒くなるにつれて再び患者数は増加して第8波となっていくと思われます。



ここで、なぜこのように患者数は増加したり減少したりするのでしょうか。これまでにも学問的にいろいろな説が提唱されていますが、現状ではTransient Collective Immunity(一過性集合免疫)という概念が有力です。一般的に言われる集団免疫効果というのは、地域において一定の割合の方が免疫をもつと、感染伝播の鎖が途中で途切れてしまうので、感染が自然に収束していくというやつですが、この一過性集合免疫という概念は一時的に多くの感染者がでると、地域の小さな集団では、そこで感染する可能性のあるかたの多くが感染して免疫をもってしまうので、感染が自然に治まっていくという説です。つまり、家族4人いて、それらがすべて一旦感染すると、しばらくの間、つまり感染して獲得した免疫が続いている間は、この家族の中では感染はひろがらないということですが、これがある程度の限定された地域で起こっているというわけです。

しかしながら、残念ながら感染･発症に対する免疫は徐々に下がっていきますので、免疫が下がってくるとまた感染してしまいます。そういう人が多くなってくればまた流行となりますが、それが第8波になるわけです。感染したことによって得られた免疫は、オミクロン以前の変異株では一般的には強くて長く持続すると考えられますが、残念ながら現在流行しているオミクロン株については自然感染してもそれで得られる免疫は弱いのですぐに減衰して、また感染してしまいます。一方では、ワクチンによる免疫も徐々に減衰しますが、3回目、4回目の追加接種では1回、2回よりも長く持続することが判明しています。そして、ワクチンによる免疫に自然感染による免疫が加わると、より強力に免疫がつくということも知られてきました。

では、ワクチンを接種せずに自然感染をする方がよいのかというと、そうとは言えず、自然感染すれば、頻度は低いといえども一定の割合で重症化して入院あるいは命を落とすこともありますし、軽症であっても、後遺症がしばらく残ることもありますし、回復後も脳血管障害や循環器障害、アルツハイマー病などの脳変性疾患、糖尿病などになるリスクが高くなることもわかっています。そしてワクチンを接種することによって、後遺症を80%以上予防できることも報告されています。

そういうふうに考えると、今後も感染は続きますので、多くの方が繰り返して感染することになります。ワクチンを接種せずに繰り返して感染すると後遺症が